

2022年5月29日～6月4日 各家庭でのディボーション用テキスト

**基督者** 実際別のもので、魂と肉体のように違っています。魂のない肉体がしかばねに過ぎないように、言葉もそれだけならば、やはりしかばねです。宗教の魂は実行の面にあります。「父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まらずに、身を清く保つことにほかならない」【ヤコ 1:27、1:22-26 参照】ですからね。このことに饒舌者は気がつきません。聞いたり話したりするだけでりっぱなクリスチャンになれると思って、自分の魂を欺いているのです。聞くのはただ種をまくようなものです。話すだけでは、実がはたして心と命の中にあるかを証しするのに足りません。「最後のさばきの日には人々その実によってさばかれるであろう」とあるのを確信しようではありませんか。【マタ 13:18-23、25:14-46】そのときにはお前たちは信じたかとは聞かれないで、実行したか、それともただ語るだけだったかと聞かれて、それによってさばかれるでしょう。世の終りは刈入れにたとえられます。ご承知のように、刈入れをしている人々は実以外のものには目をくれません。私がこのように話しますのは、信仰から出ないものが受け入れられるというのではなく、饒舌者の信仰告白がかの日にはいかに無意義なものであるかをあなたに示すためです。

**信仰者** このことで思い出すのは、清い獣のことを述べたモーセの言葉です。【レビ 11:3-6、申 14:7】それはひずめが分かれていて反芻するものです。ひずめが分かれているだけとか、反芻するだけとか言うものではありません。うさぎは反芻しますが汚れています。ひずめが分かれていないからです。このことは本当に饒舌者に似ています。彼は反芻します。彼は知識を求めて言葉を反芻しますが、ひずめが分かれていません。つまり罪びとの道から分かれていないのです。うさぎと同じように犬やくまのような足を持っています。だから汚れているのです。

**基督者** あなたのおっしゃったことは、恐らくその聖句の本当の福音的意味でしょう。もう一つつけ加えて申しますなら、パウロはある人々を、いや、あのお喋りな連中のことも「やかましい鐘や騒がしい饒鉢（にょうはち）」と呼んでいます。

【Iコリ 13:1-3】つまり、ほかの所で説明しているように、「命なくして声を出すもの」と呼んでいます。【Iコリ 14:7 参照】命なきものとは、つまり、福音の真の信仰と恵みがないもの、したがって、たとえその話すときの音が天使の言葉や声のようであっても、天国において命の子供たちといっしょには決しておかれなようなものです。

**信仰者** なるほど、最初あの人と連れになるのがあまり好ましくなかったのですが、今はもううんざりしています。彼を厄介払いするにはどうしたらよいでしょう。

**基督者** 私の忠告をうけ入れて、私が言うとおりにしてごらんください。そうすれば

向こうでもあなたと一緒にいるのがじきうんざりすることがお分かりでしょう、神が彼の心に触れてひるがえさせられるなら別ですが。

**信仰者** どうしたらよいでしょう。

**基督者** それはね、彼のところへ行って、宗教の力について何かまじめな話を始めてごらんなさい。そして（彼は賛成するでしょうから、そのとき）ざっくばらんに聞いてごらんなさい、宗教の力が彼の心や家や行ないにちゃんと出ているかどうかと。

そのとき信仰者は再び進み出て、饒舌者に言った、やあ、どうです、お元気ですか。

**饒舌者** ありがとう、元気ですよ。今までにずいぶんお話ができていたでしょうになあ。

**信仰者** ところで、よかったら今から始めましょう。問題を出すのを私にお任せになったのですから、こういうことにいたしましょう。神の救いの恵みが人の心にあるときは、どんな工合に現われましょうかな。

**饒舌者** では、私たちの話は物事の力についてというわけですね。なるほど、なかなかよい質問です。喜んでお答えしましょう。簡単にお答えすればこうです。第一に、神の恵みが心にある場合には、そこに罪に対する大きな叫びを起こします。第二に、一

**信仰者** いや、待って下さい。一度に一つのことを考えることにしましょう。私はむしろこう言うべきだと思いますがね。恵みは魂を傾けてその罪をきらわせるところに現われると。

**饒舌者** でも、罪に対して叫ぶというのと、それをきらうということは、どれだけ違うのでしょうか。

**信仰者** おお、大へんな違いです。人は方便から罪に対して叫ぶことはしても、信仰から出た嫌悪によらねばそれをきらうことはできないものです。多くの人々が講壇で罪に対して叫ぶのを聞いたことがあります、彼らは心と家と行ないとは相当平気であることができるのです。ヨセフの女主人は自分がいかにも清いものであるかのように大声で叫びました。**【創 39:15】**しかしそれにもかかわらず、彼女は喜んで彼と不義を犯したことでしょう。ある人々が罪に対して叫ぶのは、ちょうど母親がひざの上にのせている子供をおてんぼとかいたずら娘とか呼んでいるものの、後には抱きしめたり接吻したりし始めるのと同じですね。

**饒舌者** 言葉じりをつかまえようとしていますな。

**信仰者** いやどういたしまして。私はただ物事を正そうとするだけです。ところで恵みのわがが心の中に現われるのを証明なさろうとする第二のものは何でしょうか。

**饒舌者** 福音の奥義についての偉大な知識です。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい